

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

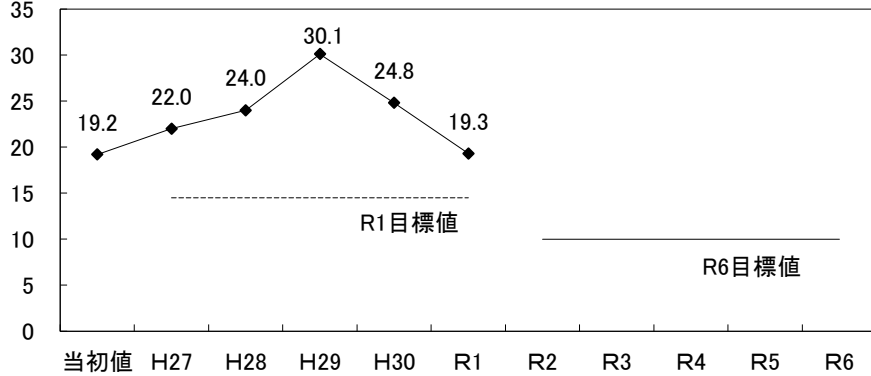
小施策の総合計画における位置付け

基本 目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	子ども青少年課	
施策	2	子ども・子育て、若者への支援	評価 責任者	佐久山 久美子	内線 691-6411
小施策	2-2	育児不安の軽減	評価 シート 作成者	佐々木 正仁	内線 691-6412

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
子育てに不安を持つ保護者の相談や虐待事案の通報が増加傾向にあることから、切れ目ない支援体制による子育て支援サービスの一層の充実が求められている。 子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、子どもたちの安心で安全な活動拠点づくりが求められている。	情報提供や育児相談、活動拠点となる児童福祉施設の充実を図り、子育てに悩まず、母子の健康が保たれ、地域の人々のやさしさに包まれて、次世代を担うこどもたちが、心豊かで健やかに育つ環境づくりを進める。 また、これから親になる世代を対象とした支援を進める。
対象(誰(何))を対象として行うのか	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象＋成功状態)
育児中の保護者	子育てを楽しんでいることができる。
育児中の保護者	安心して子育てできる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価		評価を踏まえた取組の方向性 ★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
指標① まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合				単 位	目指す方向	
				%	↘	
当初値 (H25)	19.2	R1目標値	14.5	R6目標値	10.0	
						
成果点				成果の要因分析		
				成果の要因分析		
・まちづくり評価アンケートで「子育てをつらいと感じている」割合が平成30年度の24.8%から、令和元年度19.3%に改善した。				・子ども家庭総合支援センターと、子育て世代包括支援センターとの一体的な運営により、妊娠・出産期から子育て、就学期まで切れ目のない相談支援拠点としての周知が図られるとともに、職員の増員等により、相談体制が強化され、対応件数が増加したためと考えられる。		
・30年4月に開設した子ども家庭総合支援センターの職員体制を強化したことにより、延べ対応件数が、30年度の5,143件から元年度7,267件へ大幅に増加した。				・広報もりおかにおいて子育て応援プラザに関する記事を繰り返し掲載することなどにより、本施設の認知度が上がったことによるものと考えられる。		
・子育て応援プラザma*mallの利用者数(新型コロナウイルス感染症の影響が出る前の2年2月まで分)が、30年度(同期間)の9,017人から元年度9,439人に増加した。						
問題点				問題の要因分析		
・まちづくり評価アンケートにおける「子育てをつらいと感じている」割合は、2年連続で改善が見られたものの、依然として目標値に到達していない。				・発達障害、貧困、虐待など、複数の困難を抱えている世帯が増加している。		
・虐待等の相談件数が増加しており、今後更に増加していくことが予想される。				・核家族化の進行や社会経済活動の広域化により、父母(又はひとり親)のみで子育てをする世帯が増加している。		